

4. よりやす くりもりいせき 寄安・栗森遺跡

所在地：福井市河合寄安町地係

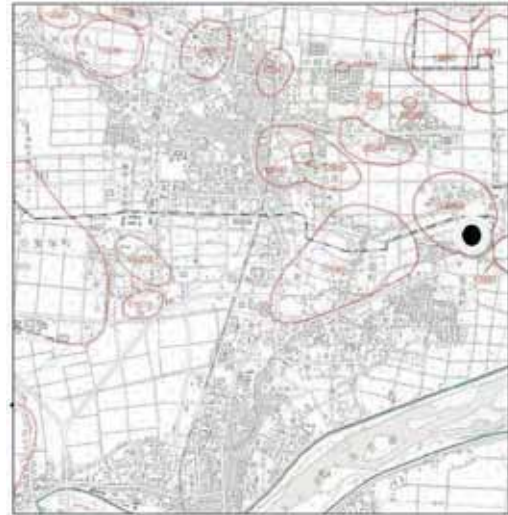
調査原因：森田北東部土地区画整理事業

調査期間：平成 27 年 9 月 10 日～11 月 20 日

調査主体：福井市文化財保護センター

調査面積：440 m²

時代：中世～近世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 調査地は、九頭竜川右岸の平野部で九頭竜川とその支流(旧ヨシノ川)が形成した自然堤防上に位置します。

森田北東部土地区画整理事業に伴う寄安・栗森遺跡の調査は 4 度にわたって実施しており、今回の 5 次調査で最終となります。これまでの調査では、弥生時代後期後半から古墳時代の集落が見つかっています。

今回の調査地付近は字「古屋敷」の地名が残っており、近世の集落の存在が考えられました。

遺構 調査では区画溝と柱穴、井戸を検出しました。区画溝は、南北方向の 2 条（区画溝 1・2）と東西方向の 2 条（区画溝 3・4）があります。柱穴は区画溝に並行する列が見つかっています。井戸は素掘り 6 基と川原石積みあげた石組みが 1 基あります。底までの深さは各 1.5m 程度あり、今でも湧水します。

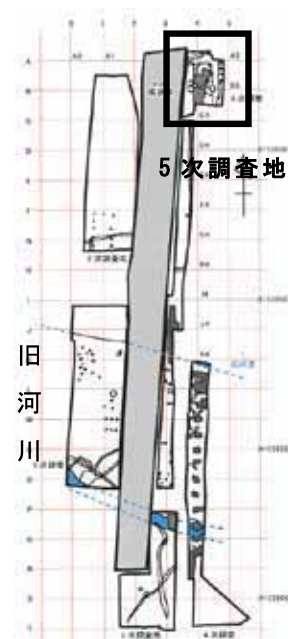
遺物 区画溝 1 では 16 世紀後半の土師器、須恵器、珠洲焼、越前焼、かわらけが出土しました。区画溝 4 では近世の陶磁器とともに、漆椀や石製のバンドコ片などが出土しました。

まとめ 弥生時代・古墳時代の遺構が中心に見つかっていましたが、今回の調査地では、はじめて中世から近世にかけての集落があったことがわかりました。

(高木康行)



第 1 図 調査地位置図



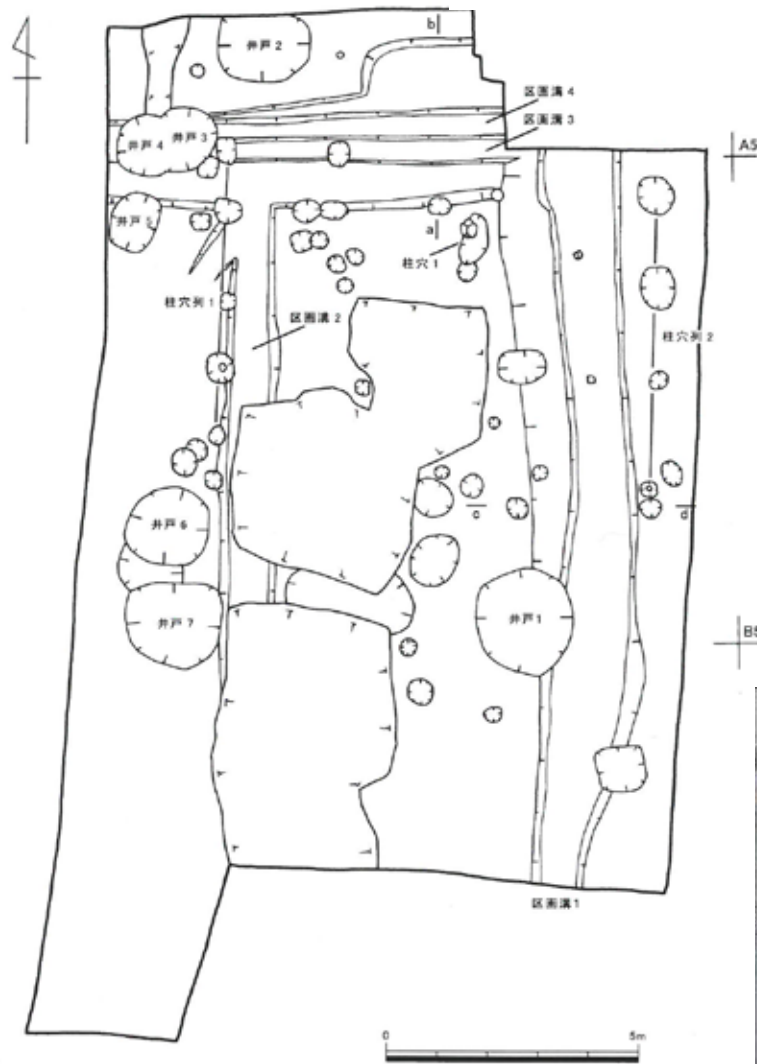
第 2 図 5 次調査地位置図



写真1 区画溝1と柱穴列(北から)



写真2 区画溝1と柱穴列(南東から)



第3図 遺構平面図

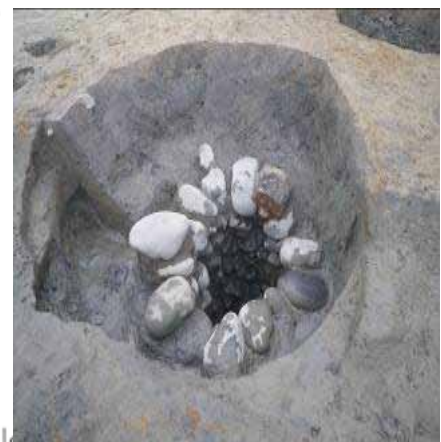


写真3 井戸1